

ミステリ読書案内

2024. 7. 1 発行元

第586号 伊藤 剛

<https://mystery-dokuan.com>

辻真先「本格・結婚殺人事件」

2月に創元推理文庫から辻真先の『本格・結婚殺人事件』が再刊された。元は1997年に朝日ソノラマから出た本なのだが、長い間手に入りにくい状態になっていた。創元推理文庫で出してくれて本当に有難かった。

待望の「本格・結婚」文庫化

1997年当時、私は読書中断期間に入っており、ミステリから完全に遠ざかっていた。従って『本格・結婚殺人事件』にはまったく気付くことなく、未読のままだった。今回の文庫化は本当に有難い。辻真先の本は古書市場でも出回っている量が少なく、高値になっているものも多い。創元推理文庫で入手困難な作品を出してもらおうと助かる。

右上に『キリコ・薩次シリーズ』を並べてみたが、私は『ガラスの仮面殺人事件』と『ユートピア計画殺人事件』が未読である。

薩次が「ざ・みすてり」大賞に

基本は薩次の作品が文英社主催の『ざ・みすてり』大賞を受賞するらしいという話からスタートする。(読んでいくとわかるが、そこにも仕掛けがあるのだが…) 賞を取ったらキリコにプロポーズするという約束が果たされることになる。このことには何も問題ない。すんなり

結婚の話が進む。

事件はここから。賞の選考委員だった三人が次々と巻き込まれていく。推理作家の文月みちやが北海道のホテルで刺殺死体として発見された。ログハウス形式の客室で、外からの侵入が不可能な密室のようにも思えるのだが…。

二人目は、評論家の鮎鮫竜馬が箱根で轢き逃げ事故に合い重体に…。三人目の評論家の西堀小波は行方不明に…。大賞の結果発表ができるのかどうか…。

応募原稿が間に挟まって…

前半部分に賞への応募原稿が三編挟まっているので、本のボリュームが増えた。「候補作A・B・C」と「選考会記事録」が事件とどうか関わってくるのかが前半のうちには見えてこない。原稿そのものの出来もそれほどではないのだ。「薩次の作品は??」と思ってしまう。

後半は北海道の殺人事件の解明がメインになっていく。現場となったオズマホテルの略図はかなり後

《キリコ・薩次シリーズ》

1. 仮題・中学殺人事件
2. 盗作・高校殺人事件
3. 改訂・受験殺人事件
4. TVアニメ殺人事件
5. SFドラマ殺人事件
6. SLブーム殺人事件
7. 宇宙戦艦富嶽殺人事件
8. 急行エトロフ殺人事件
9. 寝台特急ひかり殺人事件
10. 幻の流氷特急殺人事件
11. 電気紙芝居殺人事件
12. 東海道36殺人事件
13. 沖縄県営鉄道殺人事件
14. 『殺人事件』殺人事件
15. ガラスの仮面殺人事件
16. ユートピア計画殺人事件
17. 本格・結婚殺人事件
18. 戯作・誕生殺人事件

になってから登場する。ホテルへの出入口はカメラで撮影されており、駐車場の車は確認されていて、後は鉄柵と湖…。犯人はどのように出入りしたものなのか…。

キリコ・薩次の結婚式

最後は目出度く二人の結婚式である。近江由布子をはじめとする「蟻巣」の面々、そして出版関係者に加えて、瓜生慎や亀谷ユーカリなど辻ミステリの登場人物が顔を揃える。長い間待たされ続けた二人の結婚がようやく実現するのだった。

『戯作・誕生殺人事件』

私の手元にあるのは2013年に東京創元社から出た単行本初版。今年の5月末に創元推理文庫版が出る予定なので(この原稿はそれ以前に書いているので…)手に入りやすい状態になると思う。前作『本格・結婚』の段階からある程度時間が経った頃の話のようである。薩次とキリコの間に待望の赤ちゃんが生まれる流れになっている。シリーズ完結編ということになる。

薩次・キリコ夫妻は北関東の外れにある鷹取市に居を構えた。市の名門であった鶺鴒家の屋敷を買い取ったもの。キリコは大きなお腹で間もなく誕生を迎える段階。薩次は中国の北京で講演を頼まれて出張中。キリコに付き添っているのは中学生ヘルパーの醍醐美祿。台風が近づいてきて「嵐の山荘」に……にはならない。ここで出てくるのが四十六年前に起きた神社の祭の時の女子中学生行方不明事件。少女歌舞伎の主役を巡っての争いがあったとか…。その当時の関係者が今になって新たな事件を引き起こしたような…。一方、六年前に薩次が文英社のミステリ新人賞の審査を引き受けた時の候補作品がもうひとつの柱として登場してくる。当時は受賞作なしで、候補になった作品には修正をお願いしたのだが…。その作品原稿が突如姿を現す。事件との関りは…。基本の推理は身重のキリコが進めていく。二段組みの部分と一段組みの部分がある凝った構成。さて、事件の解決が先か、それとも赤ちゃんの誕生が先か。薩次・キリコの子どもの名前は…。